

HANDS—新たな始動

国際学部 立花 有希

ご挨拶

2022年春、HANDS創設以来つねに先頭に立って本事業を展開されてきた田巻松雄先生のご定年に伴い、代表を引き継ぐことになりました。折しも多文化公共圏センターの改革と時期が重なったこともあり、その趣旨にも照らしながら、HANDS事業の新しい形を模索しているところです。これまでHANDSが大切にしてきた理念を継承しつつ、活動内容を再構成し、他方で関係者の輪を広げて、新たな試みにも挑んでまいります。HANDSに対する期待や要望など、みなさまからの声をお寄せいただけますと幸いです。今後のHANDS事業にも変わらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年度は、国際学部新たに着任された申恵 媛助教がHANDSメンバーに加わり、さっそくこれまではなかった風が吹き始めました。HANDSの新たな始動の年となったこの一年間を以下に振り返り、事業内容のご報告といたします。それぞれにご協力くださった学内外のみなさまに心より感謝申し上げます。

外国人児童生徒教育推進協議会報告

外国人児童生徒教育推進協議会は、栃木県教育委員会と県内11市町（那須塩原、大田原、宇

都宮、鹿沼、真岡、小山、栃木、佐野、足利の各市と壬生、高根沢の各町）の教育委員会および小中学校の代表、そして多文化公共圏センターの関係者を構成員とする会議で、2010年度から継続して定期的で開催されている。今年度は、第1回を2022年9月22日に本学UUプラザにて、第2回は2023年1月30日にZoomによるオンラインで実施し、それぞれ多数の出席を得た。第1回には、「第12回栃木県外国人生徒進路状況調査」の結果報告と外国人児童生徒の保護者との協力のあり方に関する意見交換の2つを中心に、情報共有、意見交換を図った。第2回は、「国際比較の観点から考える外国人児童生徒教育の現状と課題」と題する話題提供を糸口として、外国人児童生徒の学力についての各自自治体、各学校の認識をうかがった。さらに、本協議会の今後のあり方について、それぞれの立場から議論することとし、まずは大学という組織からの見解について中村真国際学部長より説明いただいた。残念ながらそこで時間が尽きてしまったため、教育委員会や学校、宇大関係者からの意向や提案については、来年度の協議会への持ち越しとなった。第2回の議題2つは、どちらも限られた時間の中で問題意識の共有を図る難しさを痛感すると共に、多様な声を引き出す必要

性を思い知らされるものであった。協議会の外での接点も探りながら、この会がその名称の通り、外国人児童生徒教育の推進を協議する場として機能するよう、知恵を絞り、力を注いでいきたい。



多言語による高校進学ガイダンス

2020年以來、オンライン開催となっていた「多言語による高校進学ガイダンス」を本年度は対面で開催することができた。2022年9月11日(日)、本学大学会館にて行われたガイダンスには、事前申し込みのあった8家族のうち5家族の参加があり、少人数ながら中身の濃い時間が流れた。近年は個別相談のみの形となっていたが、久々に「元・外国人児童生徒」の体験談として、二人の国際学部生に自分史を語ってもらったところ、好評を博し、早くも次年度の体験談報告者についての案が上がっている。記録係として参加した学部生は、直に触れる現実に圧倒されたり、通訳役のバイリンガル学生・卒業生の姿に外国語習得意欲をかきたてられたりしていた。この教育的効果をより意図的、計画的に追求することを目的の一つとして、来年度は本ガイダンスを組み込んだ授業科目が開講される予定である。

HANDSでの活動の単位化

2022年度には、HANDSメンバーのスエヨシ・アナ国際学部准教授のご尽力により、HANDSの活動を組み込んだ授業科目が新たに提供された。「グローバルAL(アクティブ・ラーニング)演習I」という国際学部の既存科目を活用したもので、多言語による高校進学ガイダンスなどHANDSの活動で日本在住のスペイン語話者と実践的なコミュニケーションを図る機会が「グローバルな環境下におけるアクティブ・ラーニングを通じ、異なる文化や社会を体験することで、多文化共生社会に関する問題意識を涵養する」ことや、「実践的な活動を通じ、諸外国の伝統文化や現代社会、日本と当該国との関係への理解を深め、自らのキャリア形成の深化を図る」ことにつながるとして、単位付与に値する具体的な活動と時間数を割り出した上で始められたものである(引用はいずれも当該科目のシラバスの授業目標より)。想定される会話でのスペイン語表現集も用意されるなど、ティーチャーメイド型の実践的学修として、多くの示唆に富む事例となったことを広く知っていただきたい。

学生主体の活動

以上で触れなかった事業としては、学生ボランティア(小中学校での個別支援、スペイン語教室 AMAUTA での夏期集団支援)とサマースクール(宇都宮市および那珂川町とのイベント)の実施があり、いずれも学生が中心となって展開されているものである。学生の意欲、企画力、実行力にはいつも舌を巻くばかりで、そうした面が遺憾なく発揮され、そこから学生同士で学び合うことのできる機会をこれからも用意していきたいと考えている。活動の具体的内容については、それぞれに関わった学生の体験記として、これに続くページで報告されているので、どうぞそちらをご覧ください。